

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

公開実用 昭和55— 80980



(4,000円)

実用新案登録願 (2)

昭和 55 年 11 月 28 日

特許庁長官 殿

1. 考案の名称 コティ コウソク シヤシ固定構造

2. 考案者

住 所 神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地  
株式会社日立製作所 横浜工場内

氏 名 イシ ダ キヨ ヒト  
石 田 清 人 (214-1-3)

3. 実用新案登録出願人

住 所 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号  
名 称 (510) 株式会社日立製作所  
代表者 吉 田 博 吉

4. 代理人

住 所 東京都千代田区丸の内二丁目4番1号  
丸ビル 661 区 (〒100) (電話 214-0302)  
氏 名 (6835) 代理人弁護士 中 村 純 之 助



53 162611

5. 添付書類の目録

- |        |     |
|--------|-----|
| ① 委任状  | 1 通 |
| ② 説明書  | 1 通 |
| ③ 図面   | 1 通 |
| ④ 願書副本 | 1 通 |

6. 前記以外の考案者

住所	神奈川県横浜市中区新港2-29-2 赤地
氏名	株式会社日立製作所 横浜工場内 羽田 秀 毅

## 明 細 書

### 1. 考案の名称 シャシ固定構造

### 2. 実用新案登録請求の範囲

シャシをキャビネットから引出した状態で、上記シャシを上記キャビネットに固定する構造において、上記キャビネットの底部に取付穴を設け、上記シャシの先端側部にL字形係合突起を設けて、上記取付穴に上記L字形係合突起を係合することを特徴とするシャシ固定構造。

### 3. 考案の詳細な説明

この考案はテレビジョン受信機のシャシをキャビネットから引出した状態で、上記シャシを上記キャビネットに固定する構造に関するものである。

従来、テレビジョン受信機の故障を修理する場合には、回路基板が取付けられたシャシをキャビネットから引出したのち、そのシャシをブラウン管のネック後部に立掛けたり、シャシをキャビネットの後部まで引出し、シャシの一部をキャビネットに取付けられたレール等に引掛けた状態にし

シ取付板、3は取付板2の先端底部に設けられた  
L字形爪部、4、5は取付板2の下面に設けられ  
た突起部、6は取付板2の先端側部に設けられた  
L字形係合突起、7は取付板2の側部に設けられ  
た突起部である。また、8はキャビネット、9、  
10はキャビネット8の底部に設けられた取付穴、  
11はキャビネット8の底部に設けられた切欠部  
である。

このように構成されているから、第3図に示す  
ように、係合突起6を取付穴10に斜めから挿入  
したのち、シャシ本体1（取付板2）を時計方向  
に回動して、第4図に示すような状態とすれば、  
突起部7が取付穴10に係合して、キャビネット  
8にシャシ本体1を固定することができる。また、  
第4図に示すような状態からシャシ本体1を反時  
計方向に回動したのち、シャシ本体1を上方に移  
動すれば、キャビネット8からシャシ本体1を取  
外することができる。

また、シャシ本体1をキャビネット8に組込む  
ときには、第5図に示すように爪部3、突起部4

ている。しかし、これらの場合には、シャシの両面を同時に修理することが困難であり、また不安定な状態で作業を行なわなければならない。

また、2段のレールによりシャシをブラウン管の最後部より外側まで引出し、シャシを回転させ固定するものもあるが、この場合には構造が複雑になり、高価である。

この考案は上述の問題点を解決するためになされたもので、構造が簡単で、かつシャシの両面を同時に修理することができ、また安定した状態で作業を行なうことができるシャシ固定構造を提供することを目的とする。

この目的を達成するため、この考案においては、キャビネットの底部に取付穴を設け、シャシの先端側部にL字形係合突起を設けて、上記取付穴には上記L字形係合突起に係合する。

第1図はこの考案に係るシャシ固定構造のシャシを示す図、第2図は同じくキャビネットおよびシャシを示す図である。図において1はシャシ本体、2はシャシ本体1にネジで取付けられたシャ

図 1

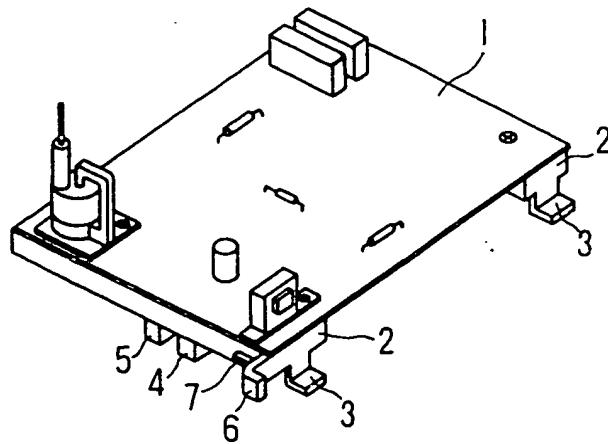
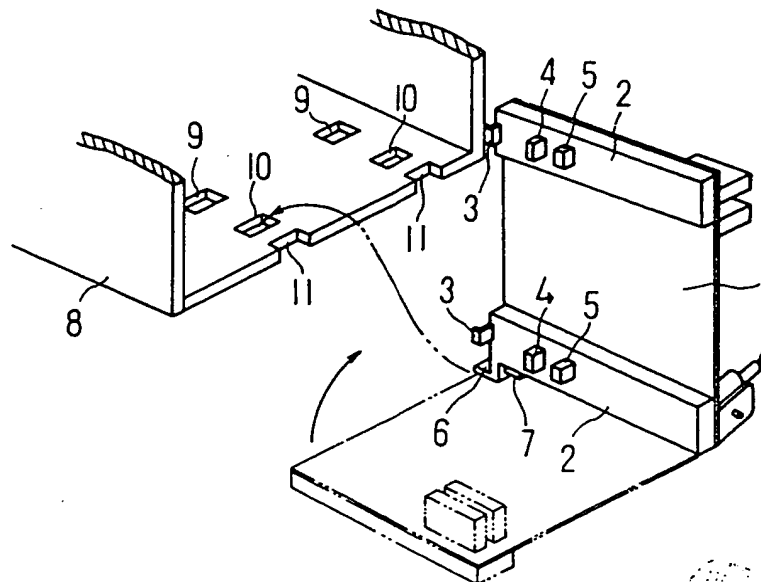


図 2



80980  $\frac{1}{3}$

中村純之助 氏 敬 啓

5を取付穴9、10、切欠部11に挿入する。

以上説明したように、この考案に係るシャシ固定構造においては、第6図に示すように、シャシ本体1を垂直にした状態でキャビネット8に固定することができるので、シャシの両面を同時に修理することができ、また安定した状態で作業を行なうことができる。さらに、キャビネット8に取付穴6を設け、取付板2に係合突起6を設けるだけでよいから、構造が簡単であり、安価である。このように、この考案の効果は顕著である。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図はこの考案に係るシャシ固定構造のシャシを示す図、第2図は同じくキャビネットおよびシャシを示す図、第3図、第4図は同じく固定手順説明図、第5図はシャシ組込状態を示す図、第6図はシャシ固定状態を示す図である。

1…シャシ本体                      2…シャシ取付板

6…L字形係合突起              7…突起部

8…キャビネット              10…取付穴

代理人弁理士 中村純之助



図 3

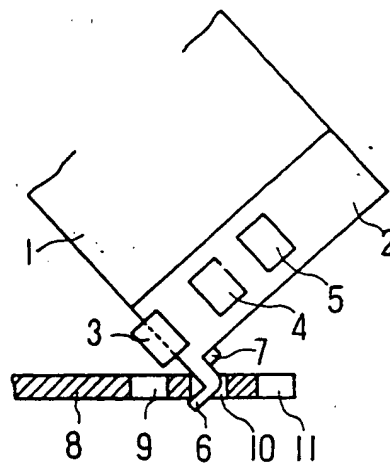
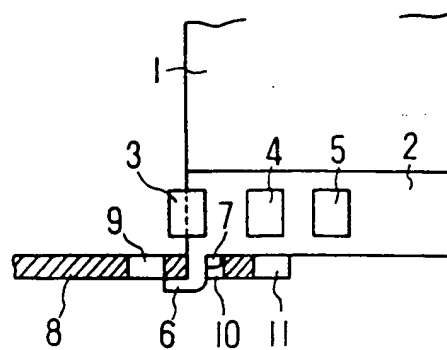
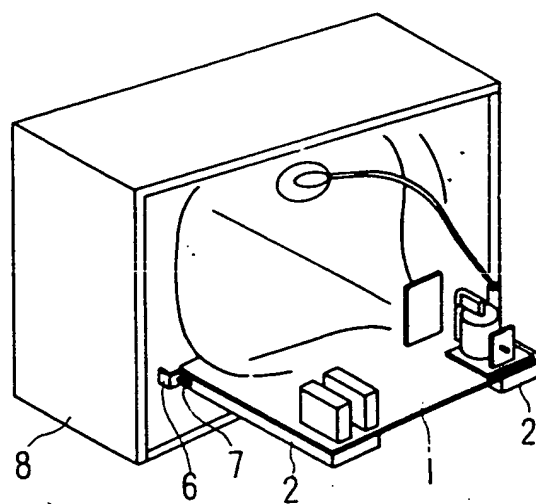


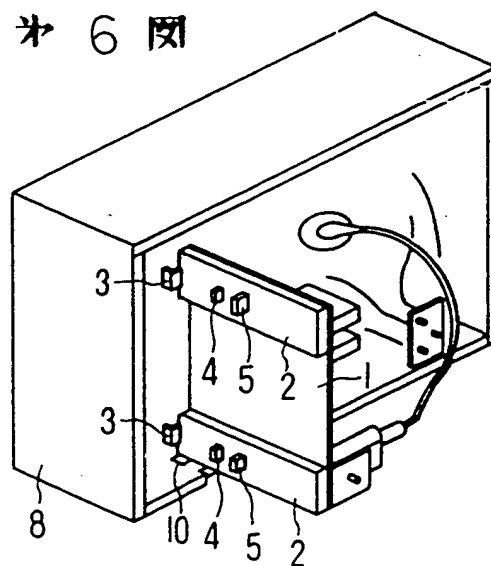
図 4



※ 5 図



※ 6 図



80980  $\frac{3}{3}$  尺理人办理士 中村純之助